

京都教区時報

Home Page <http://www.kyoto.catholic.jp> 4345

3頁 聖書講座 「今、キリストを証しする」 鈴木信一師

6~7頁 中学生広島平和巡礼 感想文

発行 京都司教区
責任者 村上透磨
京都市中京区河原町
三条上ル
京都教区時報編集室
TEL 075-211-3468
FAX 075-211-4345

点訳版「京都教区時報」(無料)
ご希望の方は点訳ネット「レジナ」代表嶽崎(たけざき)裕子さんまでお申込みください。

TEL・FAX 0794-31-8601

福者つて誰?

福音に生きるため貧しく小さくされた人は幸い。

神がその義(救い)を現し

福いな人、福音に生きた人、命をかけて
真福八端(8つの幸い)(マタイ
5・3~12)に生きた人

その憐れみ(赦し)をお与えになるもの
その様な人は、では誰?

信仰に生きようとするばかりに
迫害を忍ばねばならぬキリスト者

貧しいが故に迫害され

(5・11~12)
迫害を忍ばねばならぬキリスト者

(5・4)
お前は神の子だと言つて下さる様な者は

迫害されても倒れず(5・11)
迫害の最中にあっても

(5・11~12)
迫害を忍ばねばならぬキリスト者

(5・9)
お前は神の子だと言つて下さる様な者は

迫害されても倒れず(5・11)
迫害の最中にあっても

(5・11~12)
迫害を忍ばねばならぬキリスト者

(5・4)
お前は神の子だと言つて下さる様な者は

迫害されても倒れず(5・11)
迫害の最中にあっても

親しい者の死を悼み
神に背を向げず
神の救いを待ち望む人

(5・6)

(5・6)

(5・6)

彼らは永遠の命(天の国)を
受け継ぐことになるからです
(5・8)

彼らは永遠の命(天の国)を
受け継ぐことになるからです
(5・8)

彼らは永遠の命(天の国)を
受け継ぐことになるからです
(5・8)



京都カテドラル・河原町教会「殉教者の間」

京都の大殉教(列福)を記念して告解室に設けられた。内部には神戸市立博物館蔵の聖フランシスコ・ザビエル像の複製画、ガラス・エッティングで描かれた鴨川正面河原での京都の大殉教、及び聖ラザロ像が掲げられている。

11
2008

彼らは永遠の命(天の国)を
受け継ぐことになるからです
(5・8)

彼らは永遠の命(天の国)を
受け継ぐことになるからです
(5・8)

彼らは永遠の命(天の国)を
受け継ぐことになるからです
(5・8)

188殉教者列福までの経緯

高松教区 溝部脩司教

今年6月に開催された全国広報担当者会議での講話の抜粋です。

1981年2月のヨハネ・パウロ二世の来日。この中で教皇様は

日本の教会は殉教者の教会であるということを強調されて、そうした中で日本側から列福の運動が開始されることを望んでいる、とい

う希望を表しました。教皇ヨハネ・パウロ二世はその年に、マニラで

ドミニコ会関係者16人の列福を行いました。今回の列福運動の発端は、ヨハネ・パウロ二世の言葉と

ドミニコ会関係者の列福と、この2つが刺激となっています。教皇

様からそう言われたことのインパクトが非常に強かったことと、日本

の司教団が全然知らないうちにドミニコ会の関係者が列福された

という感じで、日本の司教団はある意味、ショックを受けたとい

うことです。私はその時、(司教団の)中にいたわけではありませんが、次の列福は司教団の主導の下で行

う。つまり日本教会の司教団の主導の下で、殉教者の列福調査を行うという決意を司教団がいたしました。

1984年の司教総会で「列福調査開始を宣言」。すぐに列福調査委員会を発足し、私はこの委員会の委員に、2008年に委員長に任命されました。

私は任命を受けてすぐ、列聖省長官のサラバ枢機卿様に面会に行きました。「レラトール」のエセル神父様にも、ボステラトルのロホス神父様にも会いました。そこで気付いたことは、エセル神父様から言われたことです、「日本は書類だけは提出したけど、それ以降何も特別なことはしてきていない」ということでした。6年間ぐらいたる間に温度差が激しくなったからです。ある教区はとても熱心なのに、ある教区は「今さら昔の歴史をほじくり返したって仕方がない、現代の問題の方が大事なのではないか」というような感じでした。そのほかにも、「殉教者は英雄」だなんていう言い方はあまりよい呼び方ではない。むしろ転んだ人に焦点を当てるのが

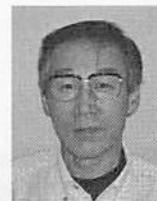
うしようもないなあという感じで……(笑い)。サラバ枢機卿様が言うのには、「問題は熱心さだ」と。日本の教会がどれくらいこの運動に熱心であるかどうかだということです。そこで司教総会において全司教の署名をいただいとを決定しました。「その頃までは司教団の中でも、列福といつても、特別な実感がなかった」というようなことをこの間、岡田大司教様が言っておられました。「私はその頃、特別にとは思っていないかったけれど、今になつてみたらそれは恥ずかしいことでした」ともおっしゃっておられました。早く速、「教区担当者会議」というのを2004年に開きましたが、あまり進展はありませんでした。教区間の温度差が激しくなったからです。ある教区はとても熱心なのに、ある教区は「今さら昔の歴史をほじくり返したって仕方がない、現代の問題の方が大事なのではないか」というよう

な感じでした。その後長崎教区に「列福式実行委員会」が正式に設置されました。バチカンでは大体、年間で20件ぐらいの列聖・列福の申請件数を解決していくということで、2006年1月。当時の司教協議会会长の野村純一司教様のお尻を叩きまして、「単なる一司教の溝部がバチカンに行つてもしょうがない。司教協議会の会長という重みで行つてほしい」とお願いして、野村司教様から国務長官に日本司教団としての「列福の早期実現の要望書」を直接手渡すことができました。これについては、本當によくやつてくださったとあります。

2007年「6月1日に裁可」という通知が届きました。私はその時、列福委員会の打ち合わせで福岡の大名町教会にいました。その日、夜の9時くらいでしたか、「知らせ」が届いて「ああ、よかったですなあ」と思った次第です。最初に私と一緒にその知らせを聞いたのは、居酒屋で一緒にお酒を飲んでいた青年たちでした。(笑い)。そしてその後長崎教区に「列福式実行委員会」が正式に設置されました。これが「列福」に関する緯です。

教会共同体

鈴木信一神父（聖パウロ修道会）



はじめに

「証し」には、信仰の側面と、社会学的な側面があ

る。ここでは信仰の側面から述べるので、社会学的な側面について、ひとこと述べておきたい。それは、日本文化はキリスト教の証しを受け入れにくい文化だということだ。なぜなら、「和をもつて尊し」とする日本文化は、異質なものを受け入れし排除する傾向が強いからだ。この拒絶は、外からの異物に対してもなく、内部から異物が生まれることを極力警戒し、排除する。日本文化にとって、キリスト教は正真正銘の異物に他ならない。以上のことを念頭に置きながら、パウロの書簡にみられる教会共同体の証しの多様性を考察したい。

第1期の証し—初代教会の証し

第1期に属する伝承は、パウロ

以前に初代教会によって生み出さ

聖書講座シリーズ「今、キリストを証しする」7／16・17

れた証しだ。これらの証しを知る手がかりは、パウロが書き残した書簡の中にある。その代表例は、「晚餐の伝承句」（Iコリント11・23～25）、「キリストの復活の伝承句」（Iコリント15・3～5）、「キリスト賛歌」（ファイリピ2・6～11）の3つだ。これらの証しは、パウロ以前の信仰共同体が生み出したもので、ユダヤ人キリスト者あるいは、異邦人キリスト者によって生み出された。「晚餐の伝承句」と「キリストの復活の伝承句」は、イエスの身近にいたユダヤ人キリスト者たちによって作られ、いっぽう「キリスト賛歌」は、そのギリシャ哲学的な表現から、ヘレニズム文化の中で育った異邦人キリスト者によって作られたと考えられる。パウロはこうしたパウロ以前の教会の証しを受け継ぎながら発展させた。

第2期の証し—パウロの証し

（50～56年頃）

パウロは7つの書簡を書き残し

た。パウロの時代の教会は、何も持たない教会だった。教会は少人数で、相互の糾は強かつた。また、敵意を減ぼして、二つのものを一緒に受け継がれていった。パウロ自身、彼らとの糾を大切にした。パウロが書き送った書簡が、パウロ的伝統の出発点となり、後代に受け継がれていった。

第3期の証し—パウロの伝統を生き、発展させた教会の証し

（70～80年代）

第3期には、IIテサロニケ、コロサイ、エフェソの3書簡が属す

る。パウロの死後、教会はヘレニズム文化圏に広まり、それに伴って、教会は新しい証しを生み出した。「ヘレニズム的宇宙論をふまえたキリスト論」は、その好例だ（コロサイ1・15～20）。また、信仰がヘレニズム文化圏に広まるにつれ、ユダヤ教的伝統を持つキリスト者グルーピーと、ヘレニズム文化を背景に持つキリスト者グルーピーの対立が深刻になった。パウロは「イエス・キリストを信じるものは、人間は自由だ、異邦人もギリシャ人もない、奴隸もない、男も女もない、そういう区別を感じた。パウロの時代は、種を蒔き育てる時代だったが、いつの間にか、守るべきものを持っていく教会、財産家の教会になってしまった。そのなかで、教会には新たな舵取りが求められた。これがこの時代の教会の「証し」だった。

第4期の証し—パウロの伝統を生き、守った教会の証し

（100～120年頃）

第4期には、Iテモテ、IIテモテ、テトスの3書簡が属する。この時代の教会の特徴は、守りの体制に入ったということだ。パウロの時代に始まり、その後も受け継がれ、また新たな発展を見せたパウロの伝統の勢いは止まらなかつた。その中で、教会は本物を選び取り、異なるものを排除する必要を感じた。パウロの時代は、種を蒔き育てる時代だったが、いつの間にか、守るべきものを持っていく教会、財産家の教会になってしまった。そのなかで、教会には新たな舵取りが求められた。これがこの時代の教会の「証し」だった。



福音セターニュース



(唐崎ノートラム修道院 聖堂にて)

去る5月29日(木)~30日(金)に

「わたしのことばを、彼らの胸の中に授け

彼らの心にそれを記す」(エレミヤ 31,33)

をテーマにトニー・ブロードニアク師による「祈り」が唐崎ノートラム修道院で行われました。参加された方の祈りの体験を以下にご紹介します。

N.Y

「祈り」とは「神とわたし」の心のかよいあい。かかわりである。その表現方法はさまざまであり、さまざままでよい。その人、その日、その時間による。昨日と同じということはない。今、この祈りをわたしが感じるよう祈る。心のかよいあい、かかわりから成長がある。愛が伴うかよいあい、かかわりであれば変化がおこり成長していく。その成長はその人自身も感じ、まわりの人の目にも成長を感じさせる。「きまり」は必要、「きまり」は守れない時の口実と人間は考える。「自己満足」「儀式」となってしまったミサにならないように。何を望むか、どう参加するか、創造された神は「おまえはきわめて良い」と言われる。分かち合いでは、神とわたしの関係が上下関係だけでなく、横に座らせていただく関係、わたしのその時の思い、感情にありのままに向き合って祈ればよい。自分がとらわれから解放され自由になれば、他人に対しても自由にかかわれるようになる。

全体として、緑・水・鳥、あわただしくない時間、ゆったりした話し方、日常から離れることで得られる“わたしを見つめる場所と時間”安心とより頼む心、信じて前に一步一歩とすすめます。

M.I

わたしたちの毎日の生活の中で起こってくるさまざまな出来事の目に見えた部分だけで振り回され、それがどんなにしんどいことであっても、そのことの向こうにある神様の真実と、わたしの一番奥で待っていて下さる御方にこころの目を向けることが、ただひとつしんどいことを受け止めて生きる方法だということを気づかせていただきました。この琵琶湖畔がガリラヤ湖畔のような気がして朝に、午後に、そして夜に「ガリラヤ湖畔にて朝、午後、夜、イエス様と出会いました……」と大好きな歌をこころのなかで歌っています。

分かち合いでは、一人ひとりが素直に感じておられる宝を聴かせていただけて、豊かにならせていただきました。全体を通しては、沈黙が守られていてよかったです。こころから感謝のうちに。

〒604-8006 京都市中京区河原町三条上ル

京都カトリック福音センター

Tel 075-229-6800 Fax 075-256-0090 E-mail fukuin@kyoto.catholic.jp

福音センター養成コース

祈り

いのちと愛の声を聴くために

自分を知り、
沈黙の中で祈り、
人とわかつあう…

参加をお待ちしています



- 日 時 08年11月26日(水)(午後2時) ~ 27日(木)(午後4時 予定)
- 指 導 トニー・ブロードニアク師(メリノール宣教会)
Sr.菊池陽子(福音センター)
- 会 場 唐崎ノートルダム修道院(〒520-0106 大津市唐崎 1-3-1)
(電話番号 077-579-2884)
- 定 員 14名まで JR 湖西線(京都駅から 15分)唐崎駅下車 徒歩 15分
- 申し込み締め切り 11月22日(土)までに ● 参加費 11,000円

—お問い合わせ・申し込み先—

郵便番号・住所・氏名・参加コース名をご記入の上、参加費 11,000円を
郵便振替口座 (00920-4-161844 カトリック福音センター養成コース)へ
お振込みください。

〒604-8006 京都市中京区河原町通三条上ル 京都カトリック福音センター
電話 075-229-6800 フックス 075-256-0090 E-mail fukuin@kyoto.catholic.jp

中学生広島平和巡礼 感想文 (8/5~7)

みてきいて感じてほしい

桂教会 1年 R・S

2泊3日広島に来て1番おどろいたのは原爆ドームが小さかったことです。学校の教科書にある写真とかはとっても大きくみえていたので、はじめ見た時の第一印象は、けっこう小さかったです。でもこの原爆ドームには原爆の被害を今の人々に伝える大きなものに見えました。被爆者の中で生き残った人達は体にキズをおって、心にキズをおって、記憶にキズをおった人達が話しているのとかを聞いて思つたことは、伝えたいって思つているのは、私なりにかいしゃくしてしまうと、戦争をして核兵器を使つたりしないでほしい。原爆で苦しむ人は私たちでもうじゅうぶんだ。という願いといがつまつていると思います。私は原爆のおそろしさを知つたので、遊びで原爆とかいう言葉を使わないし、使つている人をみつけたら、「ヒロシマナガサキ」や原爆ドームに行ってみてよ(怒り

(マーク) つてなりそうです。国際社会の中でも、「原爆や核兵器を使わないでください。」って訴えつづけてほしいです。

伏見教会 1年 J・K

私は、今回初めて広島に来たけれど、やっぱり、原爆は絶対ダメだなあと思いました。まず、DVDを見て映像がとてもすごくて戦争の被害や怖さとかがよく伝わりました。アメリカの人も原爆はいけないと強く思つてゐることがよくわかりました。平和行進では名古屋や大阪など全国から来ている人がいて他の地方の人も原爆や戦争について考へてゐるんだなあと思いました。そして6日。まず、原爆ドームをまじかに見て、こんなに曲がるんだというほど、鉄骨が曲がつていてびっくりしました。そして印象に残つたのは記念資料です。まつ黒になつていて、やぶれています。とてもすごかつたんだなと思いました。最後に式

典やとうろう流しでも、外国人のがたくさんきていたので他の国でも原爆のことを考へてゐるんだなあと思いました。

桂教会 1年 S・Y

私はこの広島巡礼の合宿で初めて広島に来ました。学校での勉強とかお姉ちゃんが広島に来たので話はきいていましたが、実際みると、写真とかでみるのとは全然はく力がちがいました。思つていたのより小さかったのにしたらこわくて、本当にあったことだとは思えませんでした。資料館で一番印象にのこつているのはろう人形です。人間にはとてもじゃないけど見えなかつたです。もし自分が原爆にあってあんな悲惨なことになつてしまつたらと考えたらすごくこわいです。これから私は、原爆にあつた人は生きたくても生きれなかつたわけだし、がんばつて生きようと思いました。

河原町教会 1年 Y・H

5、6日の間広島平和巡礼に参加しました。広島に行くのは初めてだつたからどんな所かなと思つてだつたからです。

歩くというのを聞いたときに「うわ、しんど。」と思いました。けれど歩き始めて歌を歌い始めると楽しくなつてきました。声を張り上げみんなと歌いました。Kくんのひくギター やうしろで伴奏してくれる人にあわせて歌いました。目的地の教会に着く頃にはのどが痛くて声もガラガラでした。その後のミサは全然声が出ませんでした。

2日目に心に残つたことは分かち合ひです。見たこと、聞いたことについて話し合つたり、新聞を読んで感想を言い合つたりしました。みんなの意見を聞いたり自分も意見を言つたりしました。眠くて集中できないときもありました。寝かつたけど一応おわりました。いろんな意見が聞けてよかったです。いろんな行事に参加して3日目になつてしましました。最終日の3日目はあまり行事もありません。3日間の合宿はすぐおわつてしまします。最後にいつも「10日くらいあればいいのに」と思いました。短い3日間だったけど多くのことを学べました。来年の広島

も行きたいと思いました。

桂教会 2年 Y・M

広島に足を踏み入れてまず「今、踏んでいるこの地面で何人殺されたのか。」と感じました。広島二次世界大戦が終結し、日本の帝国主義が終わり平和が訪れました。リトルボーキが落とされ、第一次世界大戦が終結し、日本の帝國主義が終わり平和が訪れました。が平和とか自由とか平等とかが実現するにはこれだけ多くの犠牲を払わなければならぬのか、平和資料館で思ったことです。現在人類は人類を滅ぼす兵器を持っています。広島であれほどの事があつたのに、世界各国は核ミサイルの製造、水爆や中性子爆弾の開発を行っています。このままいくと世界中で広島のような殺人がおこることになります。人類が宇宙の一部となつて生きるか、地球を汚しまくってとつと宇宙へトンヅラして宇宙でも同じことをするか、それが決まるのが21世紀ぐらいだと思います。たぶん。

伏見教会 2年 M・I

8月6日午前8時15分、私は原爆投下のめやすとなつた相生橋に

いました。その時の広島の町はとてもにぎやかで63年前の悲劇が消えているみたいでした。63年も時間が流れ、被爆者は減り、どんどん原爆の事実がうすれていくようでした。被爆で亡くなつた人、そして生きている人、その方たちのつらい思い出は消えないのに私たちからは消えていくことを、被爆者の方は一番気になさっています。なので被爆当時のことを私たちに話して下さっています。私は広島巡礼が二度目だけど、被爆者の方の平和と思う気持ちは変わらないと思いました。それに前より資料館に人が多くて平和に目を向ける人が多くなつたと感じました。平和はみんなの一番の幸せで被爆者の方を含めみんなが望んでいることだと思いました。たとえ被爆者の方が1人もいなくなつたとしても又いつ被爆者が出来るか分からぬ時代なので、何年たつても人間の一番の幸せが“平和”であつてほしいと思います。

東舞鶴教会 3年 N・T

すごく短い3日間でした。とても楽しくてあつという間でした。1番印象に残っているのは、原爆

資料館で見学したことです。私は2回目だったけど今回さらに考え

ことがたくさんあつたし、原爆が投下された広島の人々の気持ちや、平和の大切さについて忘れかけた大事なことを思い出すことができたと思います。これから

の平和は私たちが受け継いでいかなければいけないから、戦争中の人们の苦しかった思いを知った私たちなりに、普段の生活から意識していけたらいいなと思います。

この合宿を通して、たくさん友達ができてよかったです。この仲間を大切にするということも世界の平和につながると思います。

普段の学校以外の友達ができる楽しそうだったのでこの合宿に来て良かったです。この合宿で、平和の大切さや友達の大切さを改めて知ることができました。また参加したいです。

奈良教会 リーダー Y・A

私は、今回初めて広島巡礼に参加しました。これまで広島を訪れたのは、修学旅行だけで、それ以来8年振りです。準備にかけるリーダーの熱意、平和行進、平和祈願ミサ。何もかも初めて味わう

ものばかりで、驚き通しでした。

平和記念資料館では、悲惨な実を改めて知り、涙が出そうになりました。自分自身知識の上では“戦争”や“平和”について理解しているものだ、と思っていました。そしてそれについて問い合わせても、答えが出ないという事も。2日目に平和記念公園を回った時に、どういう事が“平和”だろう、と聞かれても抽象的過ぎる質問です。安らぎが得てよかったです。この仲間を大切にするということも世界の平和につながると思います。

2日目に平和記念公園を回った時に、どういう事が“平和”だろう、と聞かれても抽象的過ぎる質問です。安らぎが得てよかったです。この仲間を大切にするということも世界の平和につながると思います。

普段の学校以外の友達ができる楽しそうだったのでこの合宿に来て良かったです。この合宿で、平和の大切さや友達の大切さを改めて知ることができました。また参加したいです。

巡礼に参加しても“平和”への明確な答えに近付く事はできない、と思いました。でもヒントは得られるのではないか。そうも思いました。些細な事、ささやかな笑顔が“平和”をもたらす。平和行進の時、平和祈願ミサに与った時、全員の“平和”への思いは違ふけど、その笑顔はささやかでも輝いていました。私が広島で「みてきて感じて」来た事です。

北村善朗神父



所属京都教区
生年 1963
叙階 1991

琵琶湖の辺に生まれ育ち、高校時代にイエス様と出会い、その後司祭への道を歩みはじめました。現在は京都南部地区の南ブロックBの担当司祭と教区本部事務局で働いています。今特に強く感じていることはキリスト者として同じ



福岡一穂神父

所属京都教区
生年 1963
叙階 1993

ここにちは神父さん

て喜んだり悲しんだりして出会いを深く受け止め、ため息交じりに夕方の通りを買い物袋を抱えて一人歩く時、次第に足の裏が暖かくなつて神が私に対し、「今日はまだ生きていいい」と教えて下さります。私は今後、イエスの神の福音を綺麗に語り多くの奉仕が出来る司祭にはなりたくありません。福音が自分の傾いた身体と削られた精神を通して輝いていふことに気づき、出会う人々とどんなことでも心から分かち合うキリスト者になつて生きたいです。

所属京都教区
生年 1963
叙階 1991

良書紹介
今回の良書紹介は、上智大学夏期神学講習講演集を紹介する（いずれもサンパウロ）

新刊は
2006年度

キリスト教信仰と現代社会
—21世紀への挑戦—

光延一郎編著
第一回刊行は1989年

諸教派のあかしするキリスト・福音宣教と宗教教育の新しい視点
第二ヴァティカン公会議後40年の歩み

百瀬文晃編著
(以下編著略)

2005年 日本の教会と神学

2004年 自由は域を超えて
現代キリスト教と倫理

2003年 神の知恵と信仰・
現代に生きる信仰者のこの原点

2002年 ネイティブ・インカルチャーレーションの時代・
福音とグローバル世界の出会いの神学

1990年 聖書に見る教育の原点

1990年 教会内外の方々によるもの

1992年 イエス・キリストの再発見

1991年 女性と男性・キリスト教の性・教育・結婚の理解

1993年 罪と恵み・神の前に立つ人間

1994年 教会・その本質と課題を学ぶ

1995年 復活信仰の理解を求めて・いのちの福音

1996年 啓示と宗教・キリスト教の存在意義をめぐつて

1997年 罪と恵み・神の前に立つ人間

1998年 いやしの福音・いまキリストが語りかけるものと靈性・今日どのように信仰を生きるか

1999年 終末と歴史の神学

2000年 福音宣教の過去と未来・ザビエルから始まる出

タイトルを見ても分かることだがこの講演会は、いかにして現代において信仰に生きるかが問われている。講師もカトリック教会内外の方々によるもので、広い視野に立った信仰の見直しをさせていただけるようと思える。論文集ではなく講演会記録なのでその語り言葉が、内容の難解さから解放してくれます。

(村上透磨)

お
知
ら
せ

青年セントナーから

▼YES 2008

15日(土)

16日(日)

▼聖書の集い22日(土)

教区委員会から

◆京都南部東プロック▼ウォーカソン3日(月)10時 河原町教会から鴨川沿い往復送金先 パレスチナ・女性の自立を支援する会、ルワンダ・ジャパンラブプロジェクト、マンマー・サイクロン被災者、ジンバブエ・衣料文具を送る為の費用。

◆聖書委員会▼よく分かる聖書の学び26日(水)10時半 河原町会館6階ホール▼聖書講座シリーズ

5・6日 柳田敏洋師、19・20日村上透磨師

修道会から

◆京都女子カルメル会▼講演とミサ9日(日)14時 京都女子カルメル会修道院聖堂 講演「聖パウロと三位一体のエリザベット」

講師・北村善朗師

◆諸施設・諸活動から

◆JOC▼働いている青年の集い。京都働く人の家(九条教会前)連絡先090-(8207)1831

◆聖ドミニコ女子修道会▼ロザリオを共に祈る会21日(金)10時半▼みことばを聴こう12月6日(土)9時半 講師 北村善朗師 対象青年男女 会費500円▼問合せ075(231)2017

◆京都カトリック聽覚障害者の会京都グループ▼手話学習会13日(木)13時 河原町会館6階

渡辺和子によるシリーズ。1日「てりねいに生きる」8日、15日「善き死のために」。22日は8時45分。

◆滋賀カトリック協議会▼例会16日(日)唐崎教会▼びわこウォーク

◆地区協議会から

◆在京都カナの会▼例会、結婚相談室はお休みです。

◆在世フランシスコ会京都兄弟会集会15日(土)13時半 フランシスコの家

◆三重カトリック協議会▼聖書講座(1コリント8～15章)8日(土)14時 津教会 講師・大塚喜直司教 参加費 自由献金500円程度。

◆プロック・小教区から

◆京都キリスト研究会▼追悼ミサ2日(日)14時 河原町教会▼定例会23日(日)14時 河原町会館6階 第2、第4、第5木曜日 河原町会館6階

◆コート・エレステ▼練習日毎月第2、第4、第5木曜日 河原町会館6階

◆京都キリスト研究会▼追悼ミサ2日(日)14時 河原町教会▼定例会23日(日)14時 河原町会館6階 第2、第4、第5木曜日 河原町会館6階

188殉教者列福によせて
書画展示会 作品募集

「京都の大殉教」についての歴史を学び、彼らの生き方に思いを馳せながら、殉教者を顕彰するとともに、新しい福音宣教を目指すことを目的として開催します。

作品の内容

絵画

油彩、水彩、水墨、そ

の他 クレバス、クレヨンなど

書道

詩、標語、小学生は作

文形式でボールペンで

も可

繪画

油彩、水彩、水墨、そ

の他 クレバス、クレヨンなど

書道

詩、標語、小学生は作

文形式でボールペンで

も可

書道

詩、標語、小学生は作

文形式でボールペンで

も可

書道

詩、標語、小学生は作

文形式でボールペンで

も可

書道

詩、標語、小学生は作

文形式でボールペンで

も可

書道

詩、標語、小学生は作

文形式でボールペンで

主催	京都司教区(京都の大殉教者列福記念事業特別委員会)				
送り先	〒604-8006	電話	075(211)9341	FAX	075(211)4345
	京都市中京区河原町三条上るカトリック京都司教区本部事務局宛				
累計円	53,050,931円				
(9月16日現在)					

天塚司教の

11月のスケジュール

2日(日)衣笠墓地 墓参 14時	24日(月)「ペトロ岐部と187
5日(水)~6日(木)中央協委員会 14時	殉教者」列福式
8日(土)三重聖書講座 津教会 14時	司祭全体集会 10時半
9日(日)Sr.宰川(ヌベール愛徳修道会)終生警願式 9時	司祭評議会 15時半
10日(月)司教顧問会・責任役員会 14時	常任司教委員会 14時
教区司祭追悼ミサ 故丸山吉高師20年祭 (河原町) 17時	教区評議会 13時半
11日(火)~13日(木)日韓司教交流会(韓国) 14時	29日(土)講演会 10時
16日(日)三重地区ラテンアメリカ共同体堅信式 (四日市) 15時	念ミサ(河原町) 12時
17日(月)草津カトリック幼稚園 講演会 10時	22日(土)「京都大殉教」列福祈
教区評議会 書記局会 18時	講演会 10時
18日(火)青少年委員会 15時	念ミサ(河原町)
19日(水)大津聖母幼稚園 15時	22日(土)「京都大殉教」列福祈

カ共同体堅信式ミサ
(草津) 14時
10日(月)司教顧問会・責任役員会 14時
教区司祭追悼ミサ 故丸山吉高師20年祭 (河原町) 17時
11日(火)~13日(木)日韓司教交流会(韓国) 14時
16日(日)三重地区ラテンアメリカ共同体堅信式 (四日市) 15時

内容によってお問合せする必要がある場合がありますので、ご連絡者を明記して下さい。本件は個別にはご依頼はいたしませんのでよろしくお願ひいたします。

来年度年間予定

1月号に2009年の年間予定を掲載します。締切11月20日(木)までに、「教区時報宛」と明記して、FAX 075 (211) 4345または、henshu07@kyoto.catholic.jp

にお願いします。

なお、編集担当者が変わりましたので詳細な内容での連絡をお願いします。

絡を

はつきり確定していない場合でも、予定として掲載いたします。

内容によってお問合せする必要がある場合がありますので、ご連絡者を明記して下さい。本件は個別にはご依頼はいたしませんのでよろしくお願ひいたします。

講演会 10時

ワールドユースデー in Japanに参加して

津教会

辻 真友子

2008年8月14日~17日の4日間の日程で、ワールドユースデー in Japan(以下WYD J)が開催されました。会場である山梨県の山中湖ほとりの星美ホーム山中林間寮に、200名以上の参加者が集うことができました。

2008年の7月に開催されたワールドユースデー・ワールドユースデーを盛り上げようということで、開催されたのがこのWYD Jでした。

“あなたの方の上に聖霊が降る

と、あなた方は力を受ける。そして、わたしの証人となる。”

WYD Jの期間中、今大会の

テーマであるこの言葉を特に意識して過ごしていたように思いました。そして、司教さまのカテ

ケージスや仲間との語らいの中

で、何度も“聖霊”的息吹を感じることができました。

私にとって特に印象深かったことは、聖体礼拝とその翌日に受けたゆるしの秘跡です。そこ

での温かな癒しの体験と、心の底から溢れ出た感謝の想いは、

まさに聖靈が私に対して働かれた瞬間でした。ゆるしの秘跡の時、神父さまは「愛されなければいけないからではなく、愛したから愛する愛」を教えてくれました。聖靈の働きはまさにこの、愛したいからこそ賜物であり、それを受けた私たちはその愛に応え、自らも愛すること

で、それを証していかなければいけないのだと思いました。神

様の力強い証人として…。

【青年センターホームページ】
<http://www.kyoto.catholic.jp/seinen/>

※青年センターからのお知らせやジョバニの記事などがご覧いただけます。ワールドユースデー・ワールドユースデー大会の特集が掲載されています。日本大会の特集も掲載予定です。

※携帯電話からもご覧いただけます。